

2016 年3月7日

札チャレラジオ通信 第9回

佐藤：三角山放送局をお聞きの皆さん、こんにちは。この時間は1月から始めました札チャレラジオ通信をお届けします。今日のパーソナリティはNPO法人札幌チャレンジドで就労グループのリーダーをしています佐藤美紀といいます。よろしくお願いします。この札チャレラジオ通信は、自立を目指す障がいのある人がITでマザル、ハタラク、拓きあう社会を作りたいとの思いで活動しています、私たちNPO法人札幌チャレンジドの活動内容をこの時間にお届けする番組です。今日は私、佐藤と理事長の加納で番組を進めていきます。加納理事長、よろしくお願いします。

加納：よろしくお願いします。

佐藤：加納理事長、今日は私たちの就労グループにデザイン事業を作るきっかけをくださったスペシャルなゲストをご紹介します。

加納：おっ、スペシャルなゲストですね。目の前におられますが。

佐藤：早速紹介させていただきます。今日のゲストは札幌市の事業、元気ジョブアウトソーシングセンターの所長の小形忠寛さんです。こんにちは。よろしくお願いします。

加納：こんにちは。

小形：こんにちは。よろしくお願いいたします。

佐藤：早速、小形所長に元気ジョブアウトソーシングセンターってのは何か、ラジオをお聞きの皆さんに説明をしてもらいたいと思うので。

加納：そうですね、なかなか普段、元気ジョブアウトソーシングセンターって、聞く機会がないと思うので、我々障がいのある方の働くところにはとても大切な役割を担っていただいているので教えてください。

小形：三角山放送局のお聞きの皆さん、こんにちは。元気ジョブの所長をしています小形といいます。どうぞよろしくお願いいたします。

加納：よろしくお願いします。

小形：元気ジョブでは、札幌市から委託を受けまして、障がい福祉事業所に通う障がいのある人の社会的、経済的な自立を支援する目的から、官公庁や民間企業を回りまして、障がいのある人ができる仕事を受注して、その仕事を事業所に振り分け調整を行っていく事業であります。元気ジョブができた経緯についてお話ししますと、これまでの障がいの福祉事業所では、職員や障がいのある人の家族とつながりのある企業から仕事をもらうケースが多

かったと思います。特に営業スタッフを持っていませんので仕事の量も限られていまして、障がい者の工賃も低いというのが現状でございました。そこで、営業専門の元気ジョブという組織を作って、官公庁や民間企業などの発注者側と障がい福祉事業所の受注者側を結び付けるビジネスマッチングサービスを行うことで、事業所はその仕事の情報をもらいまして、得意とするたくさんのお仕事を受けることが可能となるわけでございます。

加納：ありがとうございます。

佐藤：なんか私たちのような福祉事業所にとってはすごくありがたいビジネスというか、事業なんだなというのはすごいわかりました。

加納：そうですね。我々の本分というのは、まず障がいのある人に向き合うことですから、そういう人たちがまず仕事をできるようにしていくっていうトレーニングからスタートですから、営業まで手が回らないよね。

佐藤：そうですね。本当になんかありがたい存在です。私たち、例えば札幌チャレンジはパソコンを使った仕事とかは得意なのですが、結構印刷とか一緒にどうか聞かれたりするんですよ。そういうときとか、私たちが単独じゃできなくてすごい困ったりしてて、そういうときに元気ジョブさんのようないろいろ分けてくださる方がいるとすごいありがたいなと思うんですけど、実際、元気ジョブさんではどんな仕事を対応されたりしているんですか。

小形：大きく分けまして六つに分類できるかと思うんですね。先ほど言いましたようなパソコンを使っての作業。データ入力、集計作業とかルビ打ち作業、テープ起こし、あと先ほども言ったデザイン製作、あとスキャニングっていう方法も最近はあるかと思うんですね。それともう一つは昔からよくやられてるかとは思うんですけども、内職の仕事ってことで簡単な軽作業。封入丁合、シール貼り、ちらしを折ったり、お菓子の箱折り、

加納：結構よく聞きます。

小形：あと糊付け、袋詰め作業、そういったものがあるかと思うんですね。あと、野外での仕事。外行と呼んでるんですけども、草刈り、集草、除草作業、公園の清掃、あとポスティング、資源回収などが挙げられると思うんですね。それともう一つ、企業下請け。建物の日常清掃、寝具交換、皿洗い、組み立て解体、野菜の皮むき、ピッキング等が挙げられるかと思います。あと、専門分野としましては、印刷、クリーニングやしているところもございません。あと、今まではずっと役務のほうの、どちらかという働くほうのことだったんですけども、もう一つは授産品ってよく言われているんですけども、手作り作品のもので、木工品、陶器、縫製、革製品、せっけんキャンドル、食品ではお弁当、パン、クッキー、ケーキなどを作っているところがございます。そういったところに我々は一般企業の卸をした

りですとか、バザーとかのお手伝いをするというようなことで営業活動をしております。

佐藤：すごい種類が多すぎて、なんかこれらの営業マンをやっていると思うと本当にありがたい次第というか、これらの仕事の細かいところとかそういうところも、やはり勉強されて説明とかされたりするんですか。

小形：基本的には、これだけの種類の本格的な中身まで覚えるとなると本当に我々も大変なものですから、そういったところについてはマッチングという中でそれぞれのやっている人がた、一緒に職員の方連れてきまして、その範囲で説明していただいているっていうような形でやっております。

佐藤：私たち札幌チャレンジドでもアンケートとか、札幌市の事業のごみカレンダーの仕事とかはその元気ジョブさんからいただいた、

加納：ですね。

佐藤：こうやって一緒に行って説明させていただいて、札幌チャレンジドを宣伝する機会を元気ジョブさんからいただいて、もう何年も続けさせていただいています。

小形：そうですね。

加納：元気ジョブさんみたいなマッチングっていう立場の方が横にいていただくだけで安心でしょう。きっとお客さんとしゃべるときに直接だとわからないときは、言われていることや意見というか話しかかみ合わなかったりするときに、うまく翻訳していただいたらこういうことなんですよ、みたいな言っていたらとなんか安心かなと思うんですけど。

佐藤：本当に安心です。なんか本当にたぶん単独だったら、何、この団体、みたいな感じだと思っんですけど。

小形：どうもありがとうございます。

佐藤：本当にありがとうございます。それで札幌チャレンジドでも何件か案件をいただいているんですけど、ちょっと言いにくい、

加納：こっそりラジオで。

佐藤：小形さんにお聞きしたいのですが、札幌チャレンジドのクライアントさんの評価というのをこっそり聞かせていただいているんですか。

小形：あまり実際にはどうですかねっていう話、直接聞くことはないんですけども、札幌チャレンジドさんのほうはスキルが高いので、

加納、佐藤：ありがとうございます。

加納：頑張っております。

小形：私どものほうは単にデータ入力とかっていうような点で簡単なお仕事だけではなく、

例えばそこに集計を入れてグラフ化していただいたりとか、ちょっと難しいようなお仕事のほうをチャレンジしてもらってるんですね。その中でもやはりミスもなく、そのあと、同じ依頼者のほうからまた声がかかるということで、リピーターが多いなっていうような感じはしております。

佐藤：うれしいですね。メンバー聞いているかな。

加納：やっぱりね。リピートしていただけるというのはね、信頼の裏返しっていうか、信頼していただいているからリピートしていただけるんだから、本当にありがたいですね。やっぱりご指名いただくのはありがたいです。

佐藤：本当にありがとうございます。ここで音楽に入りますか。今日は加納さんのリクエスト曲です。加納さん、お願いします。

加納：テレビのCMなんかでも聞かれたことがあると思いますが、小田和正さんの言葉にできないです。

佐藤：引き続き、札チャレラジオ通信をお届けしたいと思います。引き続き、元気ジョブの小形さんからまたいろいろ聞きたいと思いますのでよろしくお願いします。

小形：よろしくお願いします。

佐藤：質問なのですが、元気ジョブさんでは先ほどのお話で企業さんとか行政さんとかと私たち福祉サービス事業所との仕事をマッチングすることがわかったのですが、その仕事のマッチングの仕方とか、もしよろしければ教えていただけますか。

小形：札幌市内には今現在、約500か所ほどの事業所がございます。

佐藤：そんなにあるのか。

加納：500分の1だから、僕たち。

佐藤：私たち500分の1。

小形：それでメールで一斉に仕事のご案内をさせていただいたりとか、発注者からの仕事内容にもよるんですけども、事業者との位置関係にもよるんですけども、仕事の効率を考えまして地域を絞ってご案内させていただくってこともあります。その中から要望に沿った事業所を選んで、発注依頼者側と接触してもらうためのサポートを行ってきます。お互いの条件が合えば契約を交わして仕事を行っていただくっていう流れになるかと思います。

佐藤：ありがとうございます。この事業の仕組みっていうのは、聞いたところによると札幌が初めてっていうふうに聞いたんですけど、小形さん、そうなんですか。

小形：そうなんです。

佐藤：すごい。

加納：何年から始まったんでしたっけ。

小形：2009年の10月に開設しまして、半年間くらいはだいたいほぼいろんな事業所の情報集めていうんですかね、そういった部分で本格的に営業を開始してんのは22年度からってというような形になるかと思います。

加納：実績踏まえていろんな都道府県とか市町村から結構引き合いっていうか、よくいう見学させてくださいとか説明聞かせてくださいみたいな話が来てるんじゃないですか。

小形：何件か来ています。大阪の箕面市ですとか、西宮市、あと埼玉県とか見学に来られたこともあります。

佐藤：私たち札幌市内で考えてますけど、結構全国的なモデルとしても元気ジョブさんは有名なんです。

小形：その辺はどうなんでしょうか。まだ我々のほうも宣伝不足だったと思うんですけども。今現在、ホームページのほうにも載っておりますので元気ジョブって打ち込んでいただきますと、そういった部分のご意見ご要望っていう欄にありますので、そんなところからメール届いたりとかしております。

加納：仕組みは作れても、実際その仕組みが回らないと意味がないわけで絵に描いた餅になるから、そのこの回すところがしっかりできているから、先進事例として広がってるのかなと思うんですけどね。

小形：そうですね。これまで元気ジョブでは昨年度でだいたい9,000万円くらい、800件あまりのお仕事をご紹介して、年々受注量のほうも増えてきてはいます。

加納：すごいですね。2007年、8年間くらい。

小形：6年半くらい経ちます。

加納：6年半で。

小形：丸6年くらいですか。

加納：6年で800件だからね。すごいね。しかもたぶん右肩上がりに件数増えているんでしょうから、今は結構手一杯って感じですかね。結構職員の人が本当にあちこち走り回って。

小形：そうですね。

佐藤：わかりました。元気ジョブさんは全国的にも注目されていることもわかったんですけど、これからの展開っていうんですか、もしよかったら教えていただけますか。

小形：わかりました。現在札幌市内に事業所が500と言いましたんですけども、障がいのある方、その事業所に通われている方が約6,000人くらいいるといわれております。軽作業など、こういった人たちの力を合わせれば、まさにこれは大企業並みといえるかもしれません。そこで当初から我々が思っていたことっていいものは、共同受注ということなんです。よく使われる言葉ではあるかと思うんです。その仕組みづくりってというのはなかなか

難しくてなかなかできないんですけども、そのシステム作りを我々きちっと作り上げていきたいなっていうような思いを持っております。

加納：よく建築関係だとね、コンソーシアムっていう、いくつかの建築会社がコンソーシアム組んで大きな案件とか受注したりしますよね。1社だけじゃなかなか作り切れないんで、それぞれ札幌市が今、札幌市役所のすぐそばに再開発でビル建てたりしていますけど、ああいうのだって名だたる建設会社の名前がなんとか共同体みたいな書かれていますけど、あそこまで大規模じゃなくても、我々の事業所同士も何件か名前連ねてこういう業務を共同で受注しますよみたいな、そういうイメージですかね。

小形：そうですね。そういうことです。事業所の取り組みなどを我々の今、お仕事をご紹介させていただいている、そういった事例なんかも紹介を交えて事業アップセミナー、そういったものを開催しまして、事業所とのコミュニケーション図っていききたいなというような思いを持っているのと、先ほどいくつか大きく分けて6分類ぐらいになりますよってことでお話ししたんですけども、そういった業種別、作業別で、そういったお仕事をやっている事業者さんのグループを作って、その中で意見交換をして先ほど言ったコンソーシアムっていう、みたいような流れを作っていければと思っております。

加納：分科会みたいな感じですね。

小形：そうですね。

加納：業種別の。

佐藤：元気ジョブさんがこんなに頑張ってくださっているんで、私たち福祉事業所ももっと一緒になって頑張りたいなって、お話聞いて改めて思いました。例えば元気ジョブさんにこういった仕事はみんなで共同でやりたいよとか、あと企業さんとかが元気ジョブさんにお仕事を紹介したいよってときはどちらに連絡したらいいんですかね。

小形：連絡先は郵便番号064-0808、札幌市中央区南8条西2丁目市民活動プラザ星園103アウトソーシングセンター元気ジョブ。電話番号は011-596-6581。ファクシミリ、011-596-6582。メールアドレスは小文字でgenki@hatarakuteiです。

加納：なるほど面白い。

小形：jpです。

加納：面白いアドレスですね。

佐藤：わかりました。電話番号は011の596の6581ですね。営業時間とかはありますか。

小形：9時から5時半まで行っております。

佐藤：9時から5時半、平日ですね。

小形：はい。

加納：まずは電話で一報いただいたら、それこそ小形さんがすぐ企業さんに、

小形：そうですね。

加納：走ってって。

佐藤：そうですね。って私が言っちゃった。ごめんなさい。

加納：ご用命を承っております。そんな感じですか。

小形：私以外にもほか 4 人の方、営業スタッフがおりますので、皆さん結構、ほかの 4 人の方も頑張っておられますので。

佐藤：わかりました。ありがとうございます。もうそろそろ終わりにの時間に近づいてきましたが、なんか聞き忘れたこととかないかな。もう終わりの時間になっちゃった。今日は元気ジョブの小形さんからいろいろお話し聞いたんですけど、どうですか。

加納：札幌市の委託事業ってということで、札幌市は元気カフェとかね元気ショップとかって言って元気なんとかっていう形で、障がいのある方の働くを、応援していて、我々が日頃お世話になっている元気ジョブさんのことが改めて勉強になったなと思って、本当に心強いなと思いましたね。今日は。

佐藤：私もこの札幌ラジオ通信が決まって、すぐに小形さんに絶対出てねって頼んで実現してうれしいです。

加納：元気ジョブをやっておられる事業所の本部が西区にあるとのことなので、そのスタッフの人とか利用者さんも今日の放送を聞いていただいていると良いですね。

小形：そうですね。

佐藤：小形さん、今日は本当にありがとうございました。

小形：どうもありがとうございました。よろしくありがとうございました。

加納：引き続き、みんなのために頑張っておられる札幌中を走り回ってください。よろしくお願いします。

小形：どうもありがとうございます。

佐藤：ありがとうございます。今日は、ゲストは元気ジョブの小形所長でした。また来週、さようなら。

加納：さようなら。ありがとうございます。

佐藤：ありがとうございます。